千葉科学大学紀要，15，23-31，2022
【原著】

新型コロナウイルス感染症が流行している時期における臨地実習

Nursing students in clinical training during the COVID-19 pandemic

冨樫　千秋・高橋　方子・米倉　摩弥・鈴木　康宏・石田　直江・菅谷　しづ子

Chiaki TOGASHI-ARAKAWA, Masako TAKAHASHI, Maya YONEKURA,

Yasuhiro SUZUKI, Naoe ISHIDA and Shizuko SUGAYA

目的：COVID－19が流行している時期の臨地実習において学生が，感染対策の面で準備したこと，感染対策に関して学んだこと，これからにいかせることは何かを明らかにすることである。方法:学生4名に半構造化インタビュー調査を実施した。結果：学生が感染対策の面で準備したこと6カテゴリ【体温測定の徹底】【感染しない為のマスクの着用】【感染しない為の清潔行動】【行動範囲の見直し】【生活習慣の見直し】【COVID-19と似た症状への気遣い】，学生が感染対策に関して実習で学んだこと3カテゴリ【今までと違う感染予防の気づきと行動】【コロナ禍の病棟・患者のリアル】【感染に関する知識・行動の深化】，これから活かせること3カテゴリ【感染に対する不安や恐怖を自分でコントロール】【今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像】【他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち】，学生が抱いた感情・思い4カテゴリ【患者を感染させるかもしれない不安】【学びの実感と経験をつめた喜び】【実習前抗原検査に伴う不安と安心】【臨地で実習したことに対する複雑な思い】が抽出された。
結論：学生がこれからにいかせることとして明らかになったカテゴリは新人看護師になったときに「現実感のなさ」を埋める要素であることが示唆された。

Ⅰ．はじめに

COVID-19による社会活動の自粛は，教育面においてもその実施方法や，学校活動の再開の時期に関して多くの議論を呼び起こしている。

連絡先：冨樫千秋　ctogashi@cis.ac.jp
千葉科学大学看護学部看護学科
Department of Nursing, Faculty of Nursing, Chiba Institute of Science
（2021年9月30日受付，2022年1月25日受理）

政府は2020年4月7日に緊急事態宣言を発出し[1]，不要不急の外出制限が敷かれるともに連日，活動自粛の注意が呼びかけられた。そして2020年5月25日に緊急事態宣言が解除された[2]。千葉県にあるA大学では春学期の臨地実習は中止となり，2020年7月1日まで遠隔形式で授業を実施し，7月2日から対面形式での授業を再開した。このような状況であったが，2020年9月の4年生対象の「看護の統合と実践実習」は実習施設の受け入れがあり，臨地実習ができることになった。これまで経験したことのない新型コロナウイルス感染症が流行してい

る時期における臨地実習の再開は，実習する学生にとって手指衛生や，検温，不用意な外出の自粛などにより自身の健康に気を配り，1 人の医療従事者として責任をもって行動する必要がこれまで以上に求められることになった。

しかしながら，先行研究を俯瞰したところ，新型コロナウイルス感染症が流行している時期に流行地域における，臨地実習での，感染対策に関する学生の学びを明らかにしたものは見当らず，臨地実習の代替えのオンライン教育[3)4)5)]，シミュレーション教育[6)7)]の実践報告がほとんどであった。我が国がはじめて経験した新型コロナウイルス感染症の流行期に，流行地域に大学のある学生の臨地実習での学びを明らかにすることは今後，未知の感染症が発生したときに，将来看護師になる学生が看護師になったときにいかせることがどんなことで，教員はどんなことに留意し，臨地での実習を実現させることができるか，参考にすべきことが多く，今後の看護教育にも大きな示唆を与えてくれるものである。

そこで本研究では，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行している時期における臨地実習において学生が，感染対策の面で準備したこと，感染対策に関して学んだこと，これからいかせることは何かを明らかにしたい。

Ⅱ. 研究目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行している時期における臨地実習において学生が，感染対策の面で準備したこと，感染対策に関して学んだこと，これからにいかせることは何かを明らかにすることである。

Ⅲ. 研究方法

1．研究デザイン

本研究の研究デザインは，探索的，質的記述的デザインである。

2. 研究参加者

研究参加者は，A 大学看護学部 4 年生で「看護の統合と実践実習」を B 病院でおこなった学生で，インタビュー調査協力の依頼に対して承諾が得られた学生である。

3. 研究参加者の実習状況

「看護の統合と実践実習」は A 大学 4 年生秋学期開講科目（2 単位，90 時間），必修科目である。実習目的は，基盤分野看護学，発達分野看護学，広域分野看護学，統合分野看護学における学修を踏まえ，看護学の発展ならびに看護実践向上に向けた各自のテーマに即した計画に基づき，看護を実践する。また，保健医療福祉チームメンバーの一員として連携を持ち，メンバーシップおよびリーダーシップを踏まえた看護実践を行うことである。実習期間は，2020 年 9 月 24 日～10 月 2 日であった。

B 病院は，以下の①～③の臨地実習受入基準があった。①学校内で COVID-19 感染症の発生がなく，社会的に COVID-19 感染拡大期ではない。②国又は地方自治体が緊急事態宣言を発令している区域又は感染者が急増している区域に学校がない。③ COVID-19 抗原検査または PCR 検査を実習開始時(開始日 4 日以内)に実施し，陰性であることが確認できている。

今回，B 病院の受け入れ基準を満たしており，学生・教員ともに 9 月 23 日に B 病院で COVID-19 抗原検査を実施し，陰性であることを確認してから実習に臨んだ。

また，実習開始前 2021 年 9 月 4 日にオリエンテーションを実施し B 病院の COVID-19 感染対策にかかる臨地実習実施の対応方針を学生と共有し，2021 年 9 月 9 日～10 月 16 日の期間の体温，健康状態，行動チェックの記載を依頼した。そして 9 月 23 日の COVID-19 の抗原検査実施の事前説明をおこなった。以下の 9 点については文書と口頭で説明した。①実習期間中は共通要項および実習病院の指示に従い感染症対策を行うこと，②帰宅した際の手洗いや建物に入った際の手指消毒を必ず行うこと，③移動時にはマスクを装着し，ソーシャルディスタンスを保つこと，④実習 2 週間前から 2 週間後まで，朝晩の検温と健康チェックおよび行動記録を記載すること，⑤発熱など体調に異常があった際はすぐに担当教員に連絡をすること，⑥実習期間中は大学，実習施設と生活に必要なものを購入する目的以外で外出をしないこと，⑦実習期間中は実習施設外で，家族以外の知人や友人と接触しないようにすること，⑧実習期間中，食事は 1 人でとるように，マスクをせずに会話することのないようにすること，⑨実習期間中，休憩に使用した机などはその都度，指定された方法で消毒すること。

4. 研究参加依頼の手順

「看護の統合と実践実習」終了後，「看護の統合と実践実習」において B 病院で履修した学生 10 名に、この実習を担当していない非常勤の教員が学生とコンタクトを取り，研究参加の意思を確認し，文書および口頭で研究の趣旨および目的等を説明した。10 名のうち 4 名の学生から署名により研究参加の同意を得た。

5. データ収集方法

データ収集期間は，2020 年 11 月から 2020 年 12 月であった。

データ収集は，半構造化インタビューを用いて行った。

インタビューガイドは，研究者間で討議して決定した。

インタビューガイドは，研究目的に沿って以下の 3 つを設定した。

①実習に臨むにあたり感染対策の面で準備したこと
②感染対策に関して実習で学んだこと
③実習で学んだことでこれからにいかせることはどんなことか

上記に加え，研究協力者の性別，年齢といったデモグ

ラフィックデータを得た。

6. データ分析方法

インタビューは了承を得て録音し,逐語録を作成した。逐語録を繰り返し読み,「看護の統合と実践実習」を臨地実習で履修できた背景を充分に理解した上で，逐語録から意味のある文節を取り出し簡潔な表現に置き換えコードとした。その際には，研究協力者自身の表現を可能な限り用いた。コードの共通性，相違性を検討し，類似するコードを集め抽象度を高めていった。学生ごとに抽象度を高めたのちに，全体を統合した。

データ分析は，研究チームで討議しながら行いデータの信用性，信憑性，確証性，および転用可能性を確保した。

7. 倫理的配慮

研究参加者には,「看護の統合と実践実習」を担当していない非常勤の教員が，研究の趣旨，プライバシーの保護の匿名性の確保，研究協力中断の保証，データの管理方法について文書を用い口頭で説明し，同意書への署名を得た。インタビューも「看護の統合と実践実習」を担当していない非常勤の教員が行った。

なお，本研究は千葉科学大学における人を対象とする研究倫理審査委員会の承認を経て実施した（No.R02-10 2020 年 9 月 18 日承認)。

Ⅳ. 結果

1. 対象者の概要

研究に参加した学生は 4 名であった。A さん 22 歳女性，B さん 21 歳女性，C さん 21 歳女性，D さん 21 歳男性であった。研究に参加した学生 4 名中 2 名は実習中，B 病院に併設されている病院の寮を利用した。

学生の語りから，145 コードが得られ，33 サブカテゴリ（以下《　》）で示す)，17 カテゴリ（以下【　】）で示す）が抽出された。また，インタビューガイドは，研究目的に沿って３つのパート，すなわち，①実習に臨むにあたり感染対策の面で準備したこと，②感染対策に関して実習で学んだこと，③実習で学んだことでこれからにいかせることはどんなことか，から構成したものである為，３つのパートに分けてそれぞれのパートに含まれるカテゴリの内容を説明する。

分析の過程で、上記①～③のパートに分類できないコードがあり,それらは学生の思いや感情をあらわしているものであった。④学生が抱いた感情・思いというパートを設け,このパートにカテゴリの内容も説明する。

2. 学生が感染対策の面で準備したこと

学生が感染対策の面で準備したことを表 1 に示した。6 つのカテゴリから構成されている。カテゴリには【体温測定の徹底】【感染しない為のマスクの着用】【感染しない為の清潔行動】【行動範囲の見直し】【生活習慣の見直し】【COVID-19 と似た症状への気遣い】がある。【体温測定の徹底】には《体温測定をちゃんとする》,【感染しない為のマスク着用】には《感染しないようにマスクを外して会話しないようにした》《実習中は、病院が指定した医療用のマスクを着用する》,【行動範囲の見直し】には《出掛けることを控えた》《頻回に外出しないで済むように考える》《行動範囲を見直した》《寮で同級生とかかわる時間をできるだけ短くする》《寮でなるべく一人で実習記録をする》《集団を避けて一人で過ごす》,【生活習慣の見直し】には《睡眠時間をとるように気を付ける》《ごはんを食べて体力をつけるようにする》,【COVID-19 と似た症状への気遣い】には《COVID-19 に似た症状に気を遣う》が含まれる。

3. 学生が感染対策に関して実習で学んだこと

学生が感染対策に関して実習で学んだことを表 2 に示した。3 つのカテゴリから構成された。【今までとは違う感染予防の気づきと行動】【コロナ禍の病棟・患者のリアル】【感染に関する知識・行動の深化】がある。【今までとは違う感染予防の気づきと行動】には《感染対策について今まで意識していなかったことに気づく》《今までの実習では行っていなかった感染予防を行う》,【コロナ禍の病棟・患者のリアル】には《コロナ禍での病棟の変化を知ることができた》《コロナ禍での患者の様子を知ることができた》,【感染に関する知識・行動の深化】には《微生物学や看護技術で学んだことをもう一度復習し意識して実践する》《感染予防に関する臨床でなければわからないことがあると実感する》が含まれる。

4. 学生がこれからにいかせること

学生がこれからにいかせることを表 3 に示した。3 つのカテゴリから構成された。カテゴリには【感染に対する不安や恐怖を自分でコントロール】【今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像】【他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち】がある。【感染に対する不安や恐怖を自分でコントロール】には，《感染に対する不安や恐怖をコントロール》,【今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像】には，《今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像》,【他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち】には，《他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち》が含まれる。

5. 学生が抱いた感情・思い

学生が抱いた感情・思いを表 4 に示した。4 つのカテゴリから構成された。カテゴリには【患者を感染させるかもしれない不安】【学びの実感と経験をつめた喜び】【実習前抗原検査に伴う不安と安心】【臨地で実習したことに対する複雑な思い】がある。

【患者を感染させるかもしれない不安】には《患者自身が実習生から感染することに不安を感じているのでは

ないかと考える>><<相手に感染させるか自分が感染するか不安になる>>,【学びの実感と経験をつめた喜び】には<<学びの実感と経験をつめた喜び>>,【実習前抗原検査に伴う不安と安心】には<<実習前に抗原検査を受けるプレッシャーとストレスそして不安>><<実習前に抗原検査をしたから安心できた>>,【臨地で実習したことに対する複雑な思い】には<<臨地で実習したことに対する複雑な思い>>が含まれる。

Ⅴ.考察

1. 学生が感染対策の面で準備したこと

【体温測定の徹底】【感染しない為のマスクの着用】【感染しない為の清潔行動】【行動範囲の見直し】【COVID-19と似た症状への気遣い】【生活習慣の見直し】の6つについは，実習前にオリエンテーションで説明した内容が影響していると考えられる。しかし，サブカテゴリに<<体温測定をちゃんとする>><<感染しないようにすぐに清潔になるように行動した>><<感染しないようにこまめに清潔になる行動をする>>があり，「ちゃんと」「すぐに」「こまめに」にという言葉からいつも以上に学生がこれらのことを意識し行動していたことが考えられた。

2. 学生が感染対策に関して実習で学んだこと

【今までとは違う感染予防の気づきと行動】【コロナ禍の病棟・患者のリアル】からCOVID－19が流行している時期の臨地実習だからこそのリアリティを学生は目の当たりしたことが伺える。その場に実際に身をおこくことでの気づきや求められる行動があったと考えられる。【感染に関する知識・行動の深化】から感染に関する知識と行動を結びつけ経験ができたことで学びが深っていることが考えられた。

3. 学生がこれからにいかせること

【感染に対する不安や恐怖を自分でコントロール】【今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像】【他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち】の3つは，臨地で実習をしたからこその抽出されたカテゴリだと考える。COVID－19が流行している時期オンラインによる事例展開実習をおこなった大学の教員は,ペーパーペイシェントによる思考過程の訓練については，臨地実習よりもじっくり考える時間があるメリットがある[8]と述べている。

しかし，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行している時期に，就職した新人看護師は「現実感のなさ」という弱い部分があることが予測される。今回明らかになった【感染に対する不安や恐怖を自分でコントロール】【今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像】【他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち】の3つのカテゴリは新人看護師になったときに「現実感のなさ」を埋める要素だと考える。

5.学生が抱いた感情・思い

COVID－19が流行している時期の臨地実習において学生はこれまでの実習では抱いたことのないさまざまな思い感情を抱いていたことがわかった。学生は【患者を感染させるかもしれない不安】【臨地で実習したことに対する複雑な思い】を常に感じながら学生が実習していたことが伺えた。保育実習を履修する学生を対象とした小湊ら[9]の調査では，実習にあたり心配な点や不安な点について尋ねている。自由記述の質問項目には12件の回答があり,そのうち新型コロナウイルス感染症に関連した不安が挙げられていたのは2件で,新型コロナウイルス感染症自体に対する恐れや,都心に移動する際の罹患リスクについての不安が挙げられていた。それ以外の内容としては,技術・知識不安に関するもの,「日誌を毎日書き切れるか」と言った実習活動不安に関するものであることが明らかになっている。

COVID－19が流行している時期の臨地実習は,学生が感じる不安や思いは,知識･技術に対する不安とは別の次元の不安であり,今回のような条件下で実習するときは,学生の不安や複雑な思いに寄り添う配慮も必要だと考えられた。

学生は【学びの実感と経験をつめた喜び】を感じていた。三浦[10]が2020年度，3年次編入4年生の統合実習でおこなったインタビューなかでは,「シミュレーションにはおおよその答えがある。臨床では，その判断があっているか看護師ですらわからない状況で患者の反応を探りながら実践を行う。ここに実習の意味と難しさを感じた」との発言があったと報告している。学生は学内実習を経験してきており,学内実習と今回の臨地実習を比較しながら,臨地の意義や喜びを感じたと考えられた。

今回，実習施設の受け入れ条件である，事前にCOVID-19抗原検査を受検し，実習に臨んだことに伴う【実習前抗原検査に伴う不安と安心】があった。検査受検によって不安や安心を学生が感じることを意識して教員は関わる必要がある。

今回の研究結果は,これまでに明らかになっていない知見であり,今後,新興感染症が流行することがあった際に大変有用な情報となると考えられる。

6. 本研究の限界と転用可能性

本研究は，4名の学生の経験や認識を質的記述的に分類したものである為，今回の結果が共通する特質を描きだしたものであるかについては断言できない。対象者を増やし,調査を進めることが必要である。しかし,研究参加者の経験や洞察から得られた新型コロナウイルス感染症が流行している時期における臨地実習で学生が準備したこと,学んだこと,これからにいかせること,抱いた感情・思いに共通する特質が描き出されたものであることから転用可能性はあると考える。

Ⅵ. 結論

1. COVID－19が流行している時期の臨地実習において学生が,感染対策の面で準備したこととして6カテゴリ【体温測定の徹底】【感染しない為のマスクの着用】【感染しない為の清潔行動】【行動範囲の見直し】【生活習慣の見直し】【COVID-19と似た症状への気遣い】が明らかになった。
2. 学生が感染対策に関して実習で学んだこととして3カテゴリ【今までとは違う感染予防の気づきと行動】【コロナ禍の病棟・患者のリアル】【感染に関する知識・行動の深化】が明らかになった。
3. これからにいかせることとして3カテゴリ【感染に対する不安や恐怖を自分でコントロール】【今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像】【他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち】が明らかになった。
4. 学生が抱いた感情・思いとして4カテゴリ【患者を感染させるかもしれない不安】【学びの実感と臨地で経験をつめた喜び】【実習前抗原検査に伴う不安と安心】【臨地で実習したことに対する複雑な思い】が明らかになった。
5. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行している時期に実習を経験したことは,新人看護師として就職した際の「現実感のなさ」を埋める要素であることが示唆された。

引用文献

1) 内閣官房（2020a）.新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言.https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitai_sengen_0407.pdf（参照2021年3月23日）
2) 内閣官房（2020b）.新型コロナウイルス感染症緊急事態解除宣言.https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitaisengen_gaiyou0525.pdf（参照2021年3月23日）
3) 落合 亮太, 青盛 真紀, 徳永 友里, 菅野 雄介, 池田 由美子, 朝田 亜里彩, 渡邉 眞理, 渡部 節子(2020).横浜市立大学成人看護学領域におけるコロナ禍での看護学教育の試み.看護研究53（6）, 466-472.
4) 坪井 桂子, 秋定 真有, 石橋 信江, 西村 康子(2020).オンラインの特性を活かした老年看護学実習.看護教育,61(10),940-947.
5) 塩見 美抄, 細川 陸也, 平 和也(2020).京都大学におけるCOVID-19流行下の保健師課程教育実習　オンライン代替実習の成果と課題.保健師ジャーナル, 76(11),922-925.
6) 益田 美津美, 小田嶋 裕輝(2020).看護領域　バーチャル・シミュレーションを用いたハイブリッド型成人看護学実習の取り組み.医学教育,51(5),557-560.
7) 鈴木 祐子, 井上 聡子(2020).新型コロナウイルスの影響による精神看護学実習のあり方　シミュレーションを活用した学内実習.精神科看護, 47（10）,62-67.
8) 叶谷 由佳, 西田 朋子(2021). 2021年度の現任教育への期待　COVID-19が基礎教育に与えた影響を踏まえて.看護管理,31（1）,36-41.
9) 小湊 真衣, 鳥越 ゆい子, 望月 崇博, 青木 直樹(2021).保育実習参加予定学生の新型コロナウイルス感染症流行に起因する不安とその支援,帝京科学大学紀要,17,83-90.
10) 三浦 友理子(2021).COVID-19感染拡大下における看護学教育に関する官公庁等の動向と学生が認識した臨地実習での学習経験.聖路加看護学会誌, 24（1-2）,51-54.

表1　学生が感染対策の面で準備したこと

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的なコード
体温測定の徹底	体温測定をちゃんとする	決まった時間に体温測定をして、外出の記録とマスク着用をきちんとする
		体温チェックを毎日きちんと行い、外出は控える
		体温チェック表を毎日つける
感染しない為の マスク着用	感染しないようにマスクを外して会話しないようにした	普段は休憩時間でご飯食べるときにマスク外してそのまま同級生とやりとりをしていた
		壁向いてご飯を食べるとか、マスクしてないときはしゃべれないとか気を付けてた
	実習中は、病院が指定した医療用のマスクを使用する	マスクの種類が色々あるが、医療用のものを使うべき
感染しない為の 清潔行動	感染しないように、うがい手洗いをした	手洗い、うがいという当たり前の対策をきちんとする
	感染しないようにすぐに清潔になるように行動した	消毒液は自分で結構持ち運ぶようにした
		普段は何かしたら消毒をする習慣がない
		病院実習で免疫力が落ちている患者さんに接する為、何かしたら消毒することを心掛けていた
		実習中病院の寮に泊まった際、病院から帰ってきてすぐ手洗い消毒をした
		まず他の物に触れる前に手を洗うことはした
	感染しないようにこまめに清潔になる行動をする	援助前後に小まめなアルコール消毒をする
		手指消毒をまめにやった
行動範囲の見直し	出掛けることを控えた	帰省をやめ、実習に向けてきちんと自粛する
		実習前は出掛けることを控えた
		友達と会う機会を減らした
	頻回に外出しないで済むように考える	（そうですね。はい。大変でした。）外出は人と人との接触で感染が起こりやすい
		病院の寮に宿泊していた、できるためごはんは何日分かまとめて買うようして、頻回に外に行くことがないように考えて買っていた
	行動範囲を見直した	(はい。はい。)外出しないことはすごく大事なこと
		自粛期間ということで日常的にちょっと行動範囲が変わってきた
		やっぱり自粛ってなる前に、少しちょっと恐怖心があったので、出かけるっていう用事を全て中止にした
		やっぱり、ちょっとここに行って、ちょっともらってきちゃったらどうしようっていうことも思うようになったので、行動を見直す機会にもなった
	寮で同級生とかかわる時間をできるだけ短くする	同じ寮に宿泊している同級生と記録をお互い助けながらやっていた
		同じ寮に宿泊している同級生と部屋にいる時間は短くして、一気に記録をして終わったら解散という形にしていた
		宿泊先の病院の寮は一人一部屋だった
	寮でなるべく一人で実習記録を記載する	宿泊先の寮が同じ同級生と一緒に記録に取り組んだ
		記録をやるのに短時間で終わるようにし、なるべく一人でいた
	集団を避けて一人で過ごす	集団を避け一人で過ごす
生活習慣の見直し	睡眠時間をとるように気を付ける	睡眠時間を取るように気を付ける
	ごはんを食べて体力をつけるようにする	ごはんをなるべく食べて体力をつける
COVID-19と 似た症状への気遣い	COVID-19と似た症状に気を遣う	緊張すると咳が出てしまうため咳エチケットも気を付けながら感染対策をした
		コロナが流行しているため、ちょっと咳すると周りの人もあれ？ってなるので、咳エチケットには気を付けるようにした。

表2　学生が感染対策に関して実習で学んだこと

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的なコード
今までとは違う感染予防の気づきと行動	感染対策について、今まで意識していなかったことに気づく	病院でどのような感染対策してるか、やっぱり今までだとあんまり触れられてなかった
		やっぱりスタンダードプリコーションをしっかりしていないっていう人も中にはいたのではないか
		学生もうつさないように、患者さんからもらわないように結構心掛けていた
		出口と入り口を分けて汚染させないことを自分で意識する
		どこどこに行って、どこどこに何時に帰ってきて、誰と接触してっていうのも、今まで無かった。
	今までの実習では行っていなかった感染予防を行う	春学期は病院実習にはいっていない
		今回の統合実習から、マスク・アルコールもフェイスシールドもして、患者さんにケアするときは手袋もして、しっかりもう手洗いして消毒してっていうのを実習でできた
		（はい）本来だったら、休憩時間はリラックスしてお友達同士でおしゃべりしたかった
		コロナの感染症がはやってなかった時の実習でしてなかったことを今回の統合実習からした
		今までフェイスシールド付けて実習することは無かった
コロナ禍の病棟・患者のリアル	コロナ禍での病棟の変化を知ることができた	コロナの前と後だと、面会や環境が違う。
		コロナ禍での実習の体験
		コロナ禍でより感染対策の重要性を学べた
		患者さんに接する看護師は決まっている
		感染対策は個人のものだと思っていたが、病院ではアルコールの使用量の共有していた
	コロナ禍での患者の様子を知ることができた	面会制限があるので、家族との会話が減ったなかで、あまり話せてなかったから楽しいって言ってもらえた
		受け持ち患者さんが途中感染したぽいときにあった。
		感染対策だけじゃなく、働いてから患者さんの寂しさに気がついて声かけできるように視野を広くしなきゃいけない
感染に関する知識・行動の深化	微生物学や看護技術で学んだことをもう一度復習し、意識して実践する	今まで手洗いをしていたときはあまり気にしていなかったが、これを機会にしっかり指先から始めて、しっかり全体的に消毒できるようにっていうところを復習した
		学校で学んだスタンダードプリコーションについて、もう一度復習する
		洗い残しが多い部分の手順の再確認をした
		意識して、実際に復習したことも、さらに意識してやった
		どの菌、どのウイルスにどういう消毒液が効くか、自分も調べる機会があった
	感染対策に対して臨床で学ばなければわからないことがあると実感する	（はい）スタンダードプリコーションの学習につながる
		（はい）感染対策の面で準備する意識が高まった
		（そうですね。はい。）統合実習に臨む前だから感染の意識が高まった
		感染対策は、実際に、実習に行ってやるっていうことのほうが印象付いたり、身になって学ぶことができた
		病院の中でしている感染対策や、自分たちでこういうのをしなきゃいけないっていうのを座学だけじゃなく身をもって知った
		大変だったけど、教科書に載ってることの実際を体験できたというところで、今までの学年には無いチャンスとなった
		実習に行かないとわからないことがたくさんある
		授業で手洗い・うがいは習って、それが当たり前だがいざ質問されると答えられない

表3　学生がこれからにいかせること

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的なコード
感染に対する不安や恐怖を自分でコントロール	感染に対する不安や恐怖を自分でコントロール	（はい）感染に対する恐怖や不安を、きちんと自分でコントロールする
今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像	今後も感染予防対策をしながら看護をしていく姿を想像	来年度看護師として病院に就職するときに、まだコロナは続いている為、（微熱があるときは）ひとりで抱え込まないで相談することが大事
		実習行くのに体調面を相談した
		少しでも咳が出たら一人で判断せず回りの意見も聞くことで感染予防できる。
		先輩はいきなりコロナ禍の中で感染対策プラス業務もやらなければいけないが、自分たちは就職する前に学ぶことができたので、よかった
		フェイスシールド観察する上でちょっと邪魔と思ったが、この先それに慣れていくしかないので、実習でできたのはよかった
		今後の日常生活や就職してからもコロナの感染対策が当たり前になる
		就職してからも感染対策は続くと思うので、就職後の感染対策の基盤として学ぶことができて、すごい自分的にちょっとありがたかった
		感染予防をしながら患者さんにケアをするというのを、実習でできたっていうのは、でかい
他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち	他の感染症にも目を向けて感染対策を続けるという気持ち	国家試験に向けた勉強の時期にインフルエンザも流行するため、感染対策は継続していく
		病院に就職してからも感染のリスクはある為、自分はうつらない、自分がうつさないように今後も意識していかなければならない

表4　学生が抱いた感情・思い

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的なコード
患者に感染させるかもしれない不安	患者自身が実習生から感染することに不安を感じているのではないかと考える	受け持ち患者が、しょうがないからいいよっていう感じなのか、喜んでやってくれてるのか分からなくて、実習やらせていただけるのはありがたいが不安も大きい。
		やっぱり他から来る人間なので、菌を持ってないとはいえ、やっぱり患者さんの不安は通常の実習よりかは多いのかなとは思った
		外からの人には関わりたくないと思っていたかもしれないなって、そういうの心配だった
	相手に感染させるか自分が感染するか不安になる	どう感染するかも分からない、聞いたこともない病気だった
		自分がコロナになっちゃったらどうしよう
		みんな待機室にいるから、感染していたら学生同士で濃厚接触者となる
		(はい。ありました。)行動制限もあったり、いろいろ感染に対する恐怖や不安もあった
学びの実感と臨地で実習できる喜び	学びの実感と経験をつめた喜び	実習できたことは貴重だった。すごい。
		学びも大きかった
		とってもいい実習でした
		行けないより行った方がほんとに学びが深かったので、行けてよかった
		現場でしかわからないことだったり、実習に行けてすごいよかった。
		働いてから見るよりも心の準備にもなる
		ほんとに行けてよかったな
		統合実習が卒業論文にもなるってことで、自分の知りたいことを患者さんに看護して、評価したことを卒業論文にできたので病院にもすごい感謝はもちろんしている
		（大変だったけど）楽しかった
		今まで実習に行けなかったこともあって、実習に行けてよりうれしかった。すごい学ばなきゃって。
		実習をさせてもらえることがありがたい
		実習に行けた喜びと、学ばなきゃっていう意欲も高まった
実習前抗原検査に伴う不安と安心	実習前に抗原検査を受けるプレッシャーとストレス、そして不安	コロナになっちゃったら実習にみんないけなくなっちゃうってプレッシャーがストレス
		検査を受けるストレス
		検査で陰性でよかったという気持ちと陽性だったらすごい嫌だったなって
		あの環境だったら誰がなったかって絶対わかるし、大学でもうわさが広まって交友関係を考えると嫌だなって
		感染者が特定されることへの嫌悪
	実習前に抗原検査をしたから安心できた	検査したことで、自分が陰性だから大丈夫っていうふうに思って、きちんと安心して患者と接することができた
		実習前に抗原検査を実施し感染対策
臨地で実習したことに対する複雑な思い	臨地で実習したことに対する複雑な思い	実習と感染対策を両立するのは難しい
		意識したことが思いだせない
		陰性だからよかったものの
		リスクが高かったし、実習に行った人と行ってない人とで分かれてたけど賛否両論だと思う
		実習は人と人との接触で感染が起こりやすいし、やったことがない文献検討をやってみたいため実習に行きたくないと思うことと、統合実習ってことで実習に行きたいと思うことと半々の気持ち